

# ぱぴるす

## 図書館探検ツアーが行われました！

1月26日に図書館探検ツアーが行われました。このイベントは図書館の中で普通では見ることのできない場所や公開していない資料などを見学する内容となっており、午前・午後に分かれて行われ、47人にご参加いただきました。

ツアーの中では、閉架書庫と呼ばれる昔の新聞・資料を保管している部屋や、移動図書館車「とまチョップ図書館号」、ボランティアによる本の修理の様子などを見学しました。

参加者の誕生日に発行された新聞や、とまこまい港まつりの第1回ポスターなどが公開されていました。



壊れてしまった本はボランティアの方々の手で修理されています。



閉架書庫の中には、昔の新聞もたくさん保存されています。



2階の参考資料室も見学。奥には現在使われている学校の教科書も展示されています。



閉架書庫の奥には苫小牧の貴重な資料がたくさん保存されています。

# 新着図書(一般書)

## お役立ち本

『新しい市場のつくりかた』三宅 秀道/著 東洋経済新報社  
 『「求職者支援制度」150%トコトン活用術』日向 咲嗣/著 同文館出版  
 『県別対抗!東北・北海道ご当地&B級グルメ』昭文社  
 『10倍ラクするスマートフォン仕事術』こばやしただあき/著 技術評論社  
 『自分たちでつくろうNPO法人!』名越 修一/著 学陽書房  
 『新社会人のための基本マナー&常識』杉本 祐子/著 主婦の友社  
 『打楽器イ・ロ・ハ』小田 もゆる/著 教育出版  
 『賃金制度を変えるならこの1冊』高橋 幸子/著 自由国民社  
 『トコトンやさしい地熱発電の本』當舎 利行/著 日刊工業新聞社  
 『はじめての英語家計簿』Michy里中/著 Jリサーチ出版  
 『プロが教える本当に役立つ介護術』ナツメ社  
 『プロフェッショナル撮影技法』ブライン・ブラウン/著 フィルムアート社  
 『弁護士が教える絶対負けない反論術』上野 勝/著 日本文芸社  
 『ほんとうにいいの?デジタル教科書』新井 紀子/著 岩波書店  
 『ラジコン飛行機エアロパティックフライト 初級編』電波実験社

## 海外文学

『終わりの感覚』ジュリアン・バーンズ/著 新潮社  
 『カジュアル・ベイカンシー』1~2巻 J.K.ローリング/著 講談社  
 『霧の王』ズザンネ・ゲルドム/著 東京創元社  
 『郊外少年マリク』マブルーク・ラシュディ/著 集英社  
 『さ迷えるスウィニー』シェイマス・ヒーニー/[訳]著 国文社  
 『ブック・オブ・ソルト』モニク・トゥルン/著 彩流社  
 『ライオンの代価』1~2巻 トム・克蘭シー/[著] 新潮社

## 日本文学

『噂の女』奥田 英朗/著 新潮社  
 『大きな音が聞こえるか』坂木 司/著 角川書店  
 『神去なあなあ夜話』三浦 しをん/著 徳間書店  
 『きまぐれラボ』江坂 遊/著 樹立社  
 『狛犬ジョンの軌跡』垣根 涼介/著 光文社  
 『しょうがの味は熱い』綿矢 りさ/著 文藝春秋  
 『シンプルに生きる。』柳田 邦男/著 清流出版  
 『宝くじが当たったら』安藤 祐介/著 講談社  
 『旅猫レポート』有川 浩/著 文藝春秋  
 『夫婦の散歩道』津村 節子/著 河出書房新社  
 『ボクの妻と結婚してください。』樋口 卓治/著 講談社  
 『幕が上がる』平田 オリザ/著 講談社  
 『密室蒐集家』大山 誠一郎/著 原書房  
 『夜の底は柔らかな幻』上下巻 恩田 陸/著 文藝春秋  
 『ロケンロール空心町』中場 利一/著 本の雑誌社

## 歴史・時代小説

『遊び奉行』野口 卓/著 祥伝社  
 『あばれ幫間』水田 勁/著 双葉社  
 『キサキの大仏』奥山 景布子/著 中央公論新社  
 『月影の道』蜂谷 涼/著 文芸春秋  
 『破天の剣』天野 純希/著 角川春樹事務所  
 『梟の系譜』上田 秀人/著 講談社  
 『螢草』葉室 麟/著 双葉社



**「忠臣蔵の決算書」**  
 山本博文/著  
 東京新潮社

忠義の美談・赤穂事件を、経費の面から考察した一冊。会計帳簿の全文も掲載されている骨太な新書です。



**「北海道の空港」**  
 イカロス出版

広い北海道には10か所以上の空港があり、訪れたことがない場所も多いはず。各空港の写真やデータを見て、観光の計画の参考にしたいかかでしょう。



**「自然を楽しむ歩くスキーハイキング」**  
 吉原宜克/著  
 本の泉社版

雪が多いからこそ楽しめるスキーハイキング。必要な道具や楽しむポイントがこの一冊でわかります。



**「5分で読める!ひと駅ストーリー 乗車編」**  
 宝島社

宝島社主催の文学賞受賞者による短編集です。『降車編』も合わせて49名の作品を一度に味わえます。

# 本の情報・話題の本

## 図書館に住む本の話

### 今回のテーマ：いろいろな地図

地図といえば日本や世界地図、遠出のための道路地図や旅行ガイドが思い浮かびますが、図書館にはもっと豊富な地図が揃っています。

『絵図学入門』(291.03/工)は、地図が一般的になる以前、用いられていた“絵図”(世界や地域を絵で表したもの)の本。更に絵図と地図を比較して、有名時代小説の舞台を訪ね歩く『古地図で歩く大江戸捕物帳』(910.26/コ)。その薬が体のどこに効くのがわかる『くすりの地図帳』(491.5/ク)などなど。“地図”は場所だけでなく、本の内容も案内してくれる良いナビゲーターなのかもしれません。



### 予約本ランキング

- |   |               |       |      |
|---|---------------|-------|------|
|  | 「虚像の道化師」      | 東野圭吾  | (96) |
| 3   | 「ナミヤ雑貨店の奇蹟」   | 東野圭吾  | (94) |
| 4   | 「64」          | 横山秀夫  | (81) |
| 5   | 「禁断の魔術」       | 東野圭吾  | (76) |
| *   | 「母性」          | 湊かなえ  | (68) |
| *   | 「舟を編む」        | 三浦しをん | (59) |
| *   | 「三匹のおっさんふたたび」 | 有川浩   | (53) |
| *   | 「空飛ぶ広報室」      | 有川浩   | (52) |
| *   | 「神様のカルテ 3」    | 夏川草介  | (49) |

1月21日現在

### 寄贈していただきました

#### 苫小牧市役所53の会

『iPS細胞』  
他 一般書 19冊

#### 苫小牧青色申告会

『最新起業から1年目までの  
会社設立の手続きと法律・  
税金』



### 直木賞・芥川賞作品(2012年下半年)

#### 直木賞

『何者』 朝井 リョウ/著 新潮社  
『等伯』 安部 竜太郎/著  
日本経済新聞出版社

#### 芥川賞

『abさんご』 黒田 夏子/著  
文藝春秋より1月発売予定



お正月を実家で過ごし、時間もたっぷりあったので、名作「ムーミン」シリーズを一气読みしてみました。

このシリーズは、今さら紹介するまでもないくらい超有名シリーズですが、実はストーリーを読むのは今回が初めて。テレビ放送していたアニメも、我が家は子供の頃、テレビを見る時間が決まっていたため、見られず、ムーミンについて知っていることといえば、「スナフキンという孤高の男子がいる」「ムーミンはカバではない」といった程度の大変お粗末なもの。そもそも、なぜ今回このシリーズを手にとったかということ、作者であるトーヴェ・ヤンソンの描く挿絵が気に入り、『トーヴェ・ヤンソンとガルムの世界』という本を読んだのがきっかけでした。「ガルム」とは彼女が、挿絵(風刺画)を描いていたスウェーデン系の政治風刺雑誌の名前です。

もともと母親が、雑誌の立上げの時から表紙や風刺画(カリカチュア)を描いており、トーヴェも15歳の頃から同様に、風刺画を描くようになったそうです。「ガルム」誌上では、実にさまざまな挿絵をトーヴェは描きました。

中には日本を題材に描いたものも、ごくわずかですが存在します。

風刺画家という職業柄か、はたまた本来の性質かトーヴェは濃〜いアルコールと、強〜いタバコを好む、なかなかのタフ・レディだったようです。見た目愛らしいムーミンたちの生みの親というギャップも魅力に思え、ムーミンシリーズを読んでみると、なるほど、変に疑い深かったり、やけに臆病だったり、気分が上下が激しかったり、愛らしいだけでなく、挿絵同様シニカルな部分も垣間見える、とても面白い読み物でした。

そんなこんなでお正月も過ぎ去り、残されたのはムーミンのようなお腹のお肉。次はダイエット本でも一气読みしようか、と思案する日々です。

#### 「トーヴェ・ヤンソンとガルムの世界」

富原 真弓/著  
青土社/刊  
(726.1/ト)

#### 「小さなトロールと大きな洪水」

トーヴェ・ヤンソン/著  
講談社文庫  
(B94/ヤ)

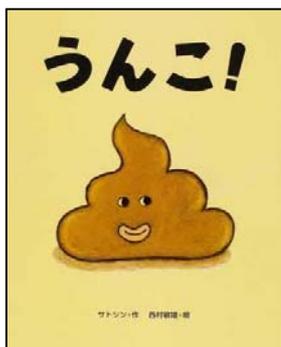


## 図書館員の読書日記 今回は「N」の日記です

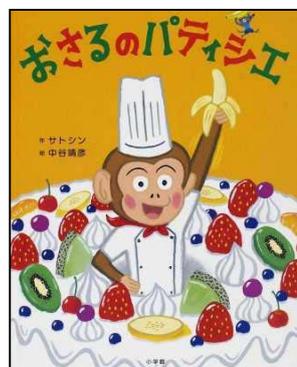
# こどもの本のページ



「さんぽのき」  
サトシン／作  
真珠 まりこ／絵  
文溪堂 Eサ



「うんこ!」  
サトシン／文  
西村 敏雄／絵  
文溪堂 Eウ

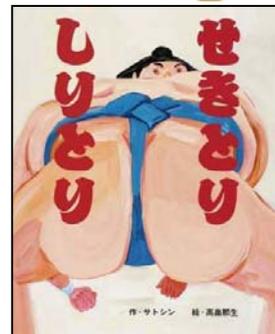


「おさるのパティシエ」  
サトシン／作  
中谷 靖彦／絵  
小学館 Eオ

## 今月のイチオシ作家 サトシン さん

1962年、新潟県生まれ。  
広告制作プロダクション勤務、  
専業主夫、フリーのコピーライター  
を経て、絵本作家に。作家活動の傍ら、  
新しいコミュニケーション遊び「おて  
て絵本」を発案、普及活動に力を入れている。  
絵本の主な作品に、『ヤカンのおか  
んとフトンのおとん』（赤川明・絵／佼  
成出版社）、『おったまげたとごさく  
どん』（たごもりのりこ・絵／す  
ずき出版）など。

(『うんこ!』奥付より)



「せきとりしりとり」  
サトシン／作  
高畠 那生／絵  
文溪堂 Eセ



「とこやにいった  
ライオン」  
サトシン／作  
おくはら ゆめ／絵  
教育画劇 Eト



「ぶつくさモンクターレさん」  
サトシン／作、西村 敏雄／絵  
PHP研究所 Eフ



「ショボリン」  
サトシン、OTTO／作  
まつむら まい／絵  
小学館 Eシ



# あたらしい本 12・1月にとどいた本からピックアップ♪

## 「トリックアートおばけやしき」 14ト

北岡 明佳/監修  
グループ・コロンブス/構成・文  
あかね書房

ようこそ、トリックアートのおばけやしきへ！  
ななめから見るとベツのものが  
見えてくるまどや、おくに  
あるものほど大きく見えるよ  
ろいなど、あっとおどろくだ  
まし絵がいっぱい。  
いたずら好きなおばけたちが、  
みんなをびっくりさせるよ。



## 「桜小なんでも修理クラブ! [3]」 913サ-3

深月 ともみ/作, 千秋 ユウ/絵  
講談社(青い鳥文庫)

冬休みを前にしたクラブに、  
「幼(おさな)なじみの翔太くんの  
夢を修理(しゅうり)してほしい」  
という依頼(いらい)がまいこ  
む。結子(むすこ)たちは学校(がっこう)を飛び出  
して「カヤの木(かやのき)伝説(でんせつ)」の調査(ていさ) (ちょう  
さ)を開始(かいし)するが、校外(がうがい)の活動(かどう)が  
問題(もんだい)になって、クラブの解散(かいさん) (かい  
さん)を命(いのち)じられてしまい…。



# おしらせ



## 大型 {絵本・紙芝居} などなど 移動図書館バスで貸出・返却できます!!

中央図書館のみでの貸出・返却だった大型絵本や読み聞かせ用品が、移動図書館のステーションでも貸出・返却できるようになりました。読み聞かせ会の予定に合わせて、使用日の1か月前から日付を指定して予約できますので、お気軽にご利用ください！(資料の利用状況によってはご希望にそえない場合があります。)

☆こんな資料がうけとれます☆

大型絵本 / 大型紙芝居 / エフロンシアター  
大型絵本・大型紙芝居の枠 / 拍子木  
絵本スタンド / イーゼル

### よみきかせ会

会場 おはなしコーナー  
定員 40名

#### ○舌小牧子どもの本の会○

(第1・第3日曜日)

2月3日・2月17日

3月3日・3月17日

午後3時～3時30分

#### ○にじのはし○

(第2土曜日)

2月9日・3月9日

午後11時～11時30分

(第4土曜日)

2月23日・3月23日

午前11時～11時30分

午後 2時～ 2時30分

### ストーリーテリング おはなし会

会場 おはなしコーナー  
定員 40名

#### ○おはなしオルゴール○

(第3土曜日)

2月16日・3月16日

午後2時～2時30分

かみしばい

紙芝居

会場 サンガーデン  
定員 40名

#### ○かみしばいおじさん○

(第2土曜日)

2月9日・3月9日

午後2時～2時30分



定期的な行事の  
おしらせ

めいさく しょうえいかい  
名作アニメビデオ上映会

会場 2階講堂  
定員 70名

手島圭三郎さんのおおはくちょうの  
そら、世界の名作よりハメルンの笛  
ふきなどのビデオを上映します。

(第2・第4日曜日)

2月10日・2月24日

3月10日・3月24日

午後2時30分～3時

# 郷土・参考資料室からのお知らせ



## 今年が苫小牧港開港50周年です

昭和38年(1963)4月25日に記念すべき第1船が入港して以来半世紀、苫小牧港は北海道の重要港湾の一つとして発展してきました。今回は苫小牧港を知るための資料を、ほんの一部ですがご紹介します。

### ★苫小牧市を知る上でも欠かせない資料★

苫小牧市の歴史を見ると、ともに発展してきた港の歴史も見えてきます。『苫小牧市史』は上巻・下巻、追補編、資料編他からなる、苫小牧の歴史書です。特に港湾については下巻に章を割いて詳しく述べられています。

### ★苫小牧港の工事の記録★

昭和26年(1951)に起工した苫小牧港ですが、長期にわたる工事の様子を記録した資料として『砂浜と原野に挑んで』や『写真で綴る苫小牧港建設の歩み』などがあります。これらは写真を多用し、年ごとの工事の進行具合がわかるようになっています。他にも『苫小牧港史』『ドキュメント苫小牧港』があり、こちらは歴史や基礎データを含み、苫小牧港について調査するにあたっての基本資料となるものです。特に『ドキュメント苫小牧港』は、もともと北海タイムスの連載記事を本にしたもので、読みやすくわかりやすい内容となっています。



### ★現在の苫小牧港★

では、現在の苫小牧港を知るには、どんな資料があるのでしょうか。『苫小牧港統計年報』は、毎年更新される港の統計書です。

また、苫小牧港管理組合などから発行されているパンフレットなども大事な情報源と言えるでしょう。



以上、簡単ですが当館所蔵の苫小牧港に関する資料をご紹介しました。今回ご紹介した資料は郷土資料室の港資料コーナーにあるものばかりです。苫小牧港にご興味のある方は、お気軽に職員にお尋ねください。(司書：西保)

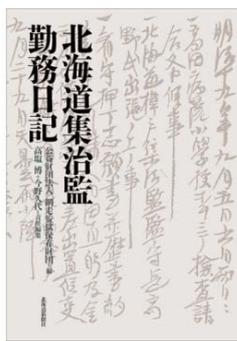
### 今回ご紹介した本

- 「苫小牧市史」(HT211.7/ト)
- 「砂浜と原野に挑んで」(HT517.8/ス)
- 「写真で綴る苫小牧港建設の歩み」(HT517.8/シ)
- 「苫小牧港史」(HT683.9/ト)
- 「ドキュメント苫小牧港」(HT517.8/ト)
- 「苫小牧港統計年報」(HT683.9/ト) …他

## 新着図書を紹介

今回は網走監獄関連で2点です。

『北海道集治監勤務日記』 (H326.5/朴)  
北海道新聞社・刊



博物館網走監獄開館30周年記念事業の一つとして、翻刻出版された本。明治14年(1881)に北海道初の集治監(シウジカ)：現在の刑務所)として設置された樺戸集治監に勤務した、白石林武(シラベ/シラノ)の勤務日記です。勤務日記だけでなく、日常生活も事細かに記録されており、当時の天候や物価などを知る上でも貴重な資料です。

『博物館網走監獄』 (H748/川)  
網走監獄保存財団・刊



網走監獄を芸術的観点からとらえた写真集。建築様式の美しさもさることながら、季節の移ろいも美しい。見る目が違えば、こうまで変わるかと思わされます。しかし、あの有名な脱獄の再現シーンについて、ほとんど触れられていないのはなぜでしょう？道東観光の折には再訪したいと思わせる一冊。



これらの本は2階郷土・参考資料室で見ることができます。

### 参考図書室・郷土資料室のご利用に際して



★かばん等の持ち込みはできません。手荷物をロッカーにお預けの上、筆記用具類のみをお持ちになってお入りください。

★資料室には自習のための席はありません。自習する方は、2階電子情報サロン隣の『自習室』をご利用願います。

# ふるさとの一片 (57)

～郷土資料コーナーで見つけた～

## 「北海道三角測量報文」

47年ぶりに改訳された  
日本初の三角測量の記録



▲ 北海道指定史跡 開拓使三角測量勇払基点 (左) と博物館展示の模型 (右)

### 北海道地図の原点、勇払基点

明治二年(一八六九)七月、明治新政府は北辺開闢・警備のため北海道に開拓使を設置します。八月には蝦夷地を北海道と改め、道内を十一国八十六郡に区画し、当地方は胆振国勇払郡になります。

江戸時代からすでに蝦夷地は伊能忠敬、間宮林蔵らによって沿岸の正確な地図が作られ、内陸部については松浦武四郎の「東西蝦夷山川地理取調図」によってかなり明らかになっていました。

しかし、開拓使はより正確な北海道地図を作製するために明治六年(一八七三)からお雇い外国人ワツソンを測量長として三角測量を開始し、その後、デイが引き継ぎます。

三角測量はまず基線(ベースライン)の設定から始まります。当初計画していた石狩川上流では基線とすべき良好な土地を見出すことができず、試行錯誤の結果、ワツソンが「最良の原線」と呼称した基線が勇払と鷗川の間に設定されます。これが日本初の三角測量基線となった直線九十二マイル(約百四十八km)超を有する「勇払基線」です。

基線の両端には基点が設置され、

それぞれに標石が埋められています。

勇払基点の標石はなかなか見つからなかったのですが、勇払小学校の近江謙三校長らの熱心な調査が功を奏し、昭和三十七年(一九六二)六月、勇払中学校校庭で、やっと発見されます。昭和四十二年(一九六七)三月には北海道指定史跡「開拓使三角測量勇払基点」として保存されています。しかし、鷗川基点は未だに見つかっていません。

### 北海道測量報文の改訂版

測量の報告書は明治九年(一八七六)にニューヨークで発刊されます。表紙の金文字「北海道測量報告」以外はすべて英文なので、翌年十二月に開拓使から「北海道測量報文」として和訳版が刊行されます。

昭和四十年(一九六五)頃、苦小牧の郷土研究者、故・門脇松次郎さんが東京神田の古本屋で英文の原書を手に入れ、当図書館に寄贈されました。その翻訳を、当時王子製紙苦小牧工場に勤務されていた弱冠二十五、六の上岡一隆さんが、開拓使よりわかりやすい和訳を、と頼まれたわけです。当図書館には上岡さん自筆の和訳文が、青みがかった湿式コピー紙四十四枚に綴られ、簡易製本

されたものが保存されています。

苦小牧郷土文化研究会の会誌、『郷土の研究』二号と『苦小牧市史資料編』に同文が、上岡徹暁の名前で掲載されています。

その後、四十五年以上の時が流れ、会社を退職されて七十代になられた上岡さんは翻訳の改訂に着手されます。改訳は、ほぼ一年で完成し、平成二十四年(二〇一二)十月に製本し、十部ほど自費出版します。改訂版はA4版で本文(表も含めて)七十一頁、地図などの資料十二枚の構成となっています。その希少な二部を当館に寄贈していただきました。あとがきには改訳の動機として「一九六五年当時はこの原著が日本で初めての本格的三角測量の貴重な資料であるとの認識がない上、苦小牧の勇払基線の重要さも理解せず闇雲に訳したため」と謙遜されています。換言するなら二十代のリベンジを七十代に晴らした、ということでしょうか。生涯学習の最も理想的なお手本をみた思いがします。(大泉)

引用・参考資料

『北海道三角測量報告書 1875』

M. S. デイ/著、上岡一隆/訳

# 行事のお知らせ

## 図書館文化セミナー

### 「元氣アツフ

#### ～絵本でココロのサプリメント～」

日時 3月8日(金) 10時00分～12時00分  
 会場 中央図書館 2階 講堂  
 対象 読み聞かせ活動をしている方  
 内容 話題の『絵本セラピー』を体感しながら、  
 絵本について楽しく学ぶ  
 講師 絵本セラピスト 塩谷 隆治 さん  
 定員 36人(無料・申込先着順)  
 申込方法 2月7日より受付開始  
 中央図書館カウンターで直接申込  
 もしくは、電話35-0511で受付

### 「よみがえる苦小牧の昭和

#### ～図書館資料整理から」

日時 3月20日(水) 14時00分～16時00分  
 会場 中央図書館 2階 講堂  
 対象 一般の方  
 内容 一耕社代表 新沼 友啓 氏による、中央図書館  
 の郷土資料整理の成果から、苦小牧の昭和を中心  
 にデジタル処理した記録を使っての講演  
 定員 40人(無料・申込先着順)  
 申込方法 3月1日より受付開始  
 中央図書館カウンターで直接申込 もしくは  
 電話 35-0511 で受付

## 春休みビデオ上映会

日時 3月27日(水)・28日(木) 14時30分～  
 会場 中央図書館 2階 講堂  
 対象 幼児・小学生  
 上映作品 『ムーミン谷の彗星』  
 定員 70人(無料・先着順)

寄付・寄贈ありがとうございました。(平成24年11月21日～平成25年1月20日)  
 個人 88件 1,017冊 団体 57件 84冊

展示コーナー 今後の予定	閲覧室入口 ● いろいろ知りたい どうして? なるほど! ～2月21日	児童コーナー ● 数字となかよく ～2月21日 ● 心があたたまる本 2月23日～3月29日
	一般書コーナー(検索機横) ● 懐かしい昭和のくらし ～2月21日	エントランス ● 苦小牧港開港50周年 展示中

※ 休館日の展示の公開はありません。  
 ※ 行事・催し・展示については、変更・中止になる場合がございます。

## 中央図書館カレンダー

※黒塗り白字になっている日は休館日です  
 丸印がついている日は午前9時30分～午後5時開館  
 印が付いていない日は午前9時30分～午後7時開館

2013年2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	②
③	4	5	6	7	8	⑨
⑩	11	12	13	14	15	⑬
⑰	18	19	20	21	22	⑳
㉑	24	25	26	27	28	

11日 建国記念の日(開館)

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	②
③	4	5	6	7	8	⑨
⑩	11	12	13	14	15	⑬
⑰	18	19	⑳	21	22	㉑
㉒	24	25	26	27	28	29
30	31					

20日 春分の日(開館)

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	⑥
⑦	8	9	10	11	12	⑬
⑭	15	16	17	18	19	⑳
㉑	22	23	24	25	26	㉑
㉒	㉓	30				

29日 昭和の日(開館)